

自分の考えをすすんで表現する子どもの育成

指定校2年次 麻績村立麻績小学校 井堀 路彦

(1) 本校の新聞活用（N I E）の現状

本校は全校児童 106 名の小規模校である。山間地であり、祖父母と同居している家庭も多く、新聞を購読していない家庭も何軒かある。昨年度に引き続きN I Eの研究指定校2年目である。昨年度は新聞を授業にどのように活用できるのか、各学級で研究してきた。各学年での取り組みも増え、成果も見えてきた。子どもたちも新聞を身近に感じ、社会の出来事に関心を持ち始めてきた。

(2) 実践のねらい

表現する力をつける新聞活用

学力・学習状況調査の児童質問紙や自己評価アンケート結果から、本校の子どもたちは「自分の思いを表現することが苦手」と感じている子が多いことが分かった。そこで、全校テーマを「自分の考えを進んで表現する子どもの育成」とし、N I Eの指定校をうけての2年間の研究が始まった。

1年次、4、6年生は、新聞作りの出前授業において新聞記者から新聞の書き方を教えていただいた。4年生は、社会見学のまとめの新聞作りを繰り返した。そのことにより、子どもたちは新聞作りの手順やポイントが分かり、学習した内容を短時間で要点的にまとめられるようになっていった。また、6年生は、国語の「校内美術館を作ろう」の学習において、紹介文の作成を行った。この授業において、子どもたちは新聞作りのノウハウを生かし、グループで推敲しあい、紹介文を仕上げることができた。これらの成果を受けて、2年次の研究では表現するという面についてさらに深めていきたいと考えた。

(3) 研究の概要

①環境作り

1年次に引き続き新聞に親しむ機会を多くしたいと考え、昇降口に「新聞コーナー」を設け、8社の新聞を自由に読むことができるようにした。その他に「子ども新聞」を通年で購入することにした。今年度も購読し、図書館に保管していく予定である。また、新聞コーナー壁面には教師や児童の作成したスクラップや授業で作成した新聞を貼り出すなどの環境作りを心がけた。高学年では斜面の書き写しノートの活用を行った。このことにより、子どもたちは新聞を身近に感じ、社会の出来事に関心を持ち始めていった。

②データベースの活用

新聞活用の一環にデータベースの活用ができないかと考え、公開授業を行った2年生の学年でもテーマに沿った新聞記事収集に利用した。データベースの活用は高学年での授業にも有効であると感じ、6年生は国語の単元「意見文を書こう」の中で利用した。自

分の考えを元にするための新聞記事などを集めるには有効であった。ただし、本校ではネット環境がよくなく、児童が一斉に使用するとフリーズしてしまうことがあった。スクラップ新聞にも活用しようとしたが新聞を読む行為がなくなり、関連記事だけを抜き出すということに違和感を感じた。

③研究の方向

- ・全ての学年でN I Eの活用に取り組む。
- ・研究グループ（社会科）（総合的な学習の時間・生活科）を窓口でN I Eの活用に取り組む。

（４）研究のまとめ

○各学年の実践記録

| 教科 | 単元名 | 展開の概要・学習活動 | 児童の様子・成果と課題 |
|-------|---|---|--|
| 1 学 年 | | | |
| 国語 | くじらぐも (新聞作りにつながる) | くじらぐもを読んで、動作化をし、くじらぐもに、乗った気持ちになった子ども達が、くじらぐもに手紙を書く。 | 大きなマットをくじらぐもに見立てて動作化→本当にくじらぐもみたい。ふわふわしていて気持ちがいい。→くじらぐもさんありがとう。またあそぼうね。 ○架空のものでも、相手意識を持って手紙を書くことができた。 ○自分の体験を、想像を膨らませて手紙に書く姿が見られた。 |
| 生活 | あさがおの観察 (新聞作りにつながる) | 半年間、大切に育ててきた朝顔とお別れする場面で、朝顔さんに手紙を書く。 | ・朝顔さん今まできれいな花を咲かせてくれてありがとう。 ・来年もきれいに咲いてね。 ・種を大切にしておいたよ。 ○さようなら、あさがおさんと題名を書いただけで、子ども達はさよならしたくないさみしいという気持ちを持っていた。朝顔さんという人ではないものに対しても擬人化して、相手意識を持って手紙を書くことができた。 |
| 2 学 年 | | | |
| 国語 | 今週のニュース ↓ こんなニュースみつけたよ (新聞で学ぶ) | (1) 気になったニュースやおうちで話題になったニュースを紹介する。 (2) 見つけた新聞記事を国語ノートに書き、グループの友だちと交換して読み合う。 (3) 読んで思ったことをカードに書いて残す。(いいねカード) | ・新聞を切り取って話す子どもの姿を全体に広めて、新聞を持ってきてもよい家は持ってくる。持ってくるのができない家の子どもは教室の子ども新聞から新聞を見つけるということにする。 ○毎日子ども新聞を教室に置き自由に読める環境を整えると同時に、自分の興味を持った記事を継続し紹介し合う事を通して、表現することに自信を持つと同時に、他者に伝えたい気持ちを持つことができるようになってきた。 |

| | | | |
|------|--|--|---|
| 生活科 | ぼくわたしにできること 【公開授業】 (新聞を作る) | ・保護犬や保護猫について調べたことや勉強したことを新聞などにしてみんなに伝える。 | 生き物の命を軽率にしていた子どもたちが、生きたくても生きることのできない動物の命について知り、そんな動物たちのために働いている人たちのことを学んだ。 ○学んだことから自分たちにできることは何かを考えた子どもたちは、多くの人に知ってもらえるようにと新聞を作りたいと願うようになった。 |
| 3 学年 | | | |
| 特活 | お礼の手紙を書こう。 (新聞作りにつながる) | お世話になった方に、形式にそって、お礼の手紙を書く。 ①理科の授業のお礼 ②ピアノコンサートのお礼 | 国語で学習した手紙の書き方を参考にして、「挨拶」・「感想」・「これからの自分が頑張ること」の3段階の構成にすることで、回数を重ねるにつれて、感想にあわせた自分の頑張りたいことを書けるようになってきた。 |
| 国語 | 「ちいちゃんのかげおくり」 (新聞を作る) | 場面ごとの内容をまとめる場面で、新聞の見出し文の書き方を参考にしてまとめた。 | 場面の内容を簡単にまとめるのが苦手な子どもたちも、新聞の見出しのように書いてある内容を端的に表せる言葉を考えることで、みんなで意見を出し合いながらぴったりの言葉でまとめることができた。 |
| 総合 | 社会見学を新聞にまとめよう！ (新聞を作る) | 松本社会見学の感動を自分の新聞にまとめて見せよう。出前授業で教えていただいた新聞の作り方を参考に縄手通り・松本城・信州ビバレッジの3カ所を記事にした。 | 初めての新聞作りで、苦勞していた児童が多かったが、特に記憶に残ったことや感動したことを箇条書きにしてから、見出しを考えることで、新聞作りに必要な記事の元を書くことができた。 ○他の学年の児童やお家の方が読みたくなるような見出しを書くことができた。見出しを元にして、見出しにあった内容の記事を書くことができた。 |
| 4 学年 | | | |
| 社会 | 住みよいくらしをつくる 1ごみの処理と利用 2水はどこから (新聞を作る) | ①地域のゴミ収集について知る。ゴミ収集をしてくださる方にインタビューして新聞にまとめる ②クリーンセンターに見学に行き新聞にまとめる ①浄水場と下水処理場の学習と見学をして、新聞にまとめる | ①毎回苦勞してゴミ収集してくださっている方にふれ、お礼の手紙と共に新聞作りをした。事実と共に感謝の気持ちが入った新聞ができた。 ②クリーンセンターを見学し、見てきたことを新聞にまとめた。信毎の方に出席授業をしていただいたいき事実をしっかりと書くという視点を教えていただいたので「一番うまく書けた」という感想が聞かれた。見出しに工夫が見られた。 ①浄水場と下水処理場の両方を一つずつ選んで記事にまとめた。自分にできることについても考えて、記事に載せた。 |
| | 火事からくらしを守る 【校内授業】 (新聞を作る) | 消防署見学、通信指令課、消防団などそれぞれ学習したものについて新聞にまとめて、一枚の「火事から | 消防署見学の新聞は、見学のまとめとして一枚新聞を作った。消防車(ER)への興味が強く、事実をまとめている児童が多かった。 ○授業毎、まとめを集積し一枚の新聞にまとめていく中 |

| | | | |
|-------------|--------------------------|---|---|
| | | くらしを守る新聞」にまとめる。 | と、最後に社説にまとめて行く中で単元を貫く学習課題の解決につながっていった。 |
| 5 学 年 | | | |
| 社 会 科 | トヨタを 調べよう (新聞を作る) | 社会科「自動車産業」の発展学習。臨海学習に合わせて実施。個々に課題を設定し調べて新聞にまとめた。 | 「心がけていること」「生産している車」 「今後の展望」などを発表し合い、予備知識を持って工場見学に臨めた。帰ってからのまとめに時間がかけられず、残念だった。 |
| 社 会 科 | 農業のまとめ (新聞を作る) | 日本の地形気候を生かした産業のまとめとして、新聞にまとめた。 | 各産業の定義を載せることを共通課題とした。発表の中から各産業のこれからのについても考えることができた。 |
| 総 合 | 米作りまとめ (新聞を作る) | 4月より取り組んできた「有機米作りのまとめ」と「米作りのこれから」を新聞にまとめた。 | 「米作りのこれから」を、社説を使って提言することで、1年間の活動の評価と自分たちの将来を考えることができた。 出前講座で「社説の書き方」を教えていただき、自分の考えをはっきり持つことができた。 |
| 6 学 年 | | | |
| 総 合 | スクラップ新聞作り (新聞で学ぶ) | 新聞を読んで自分の気になる記事を集め、スクラップしコメントを付け加える。(スクラップ新聞コンクールに出品) | 気になる記事を見つけ、テーマが決まると、多くの新聞を読み、同じような記事を見つけていた。データベースも使用した。 ○普段あまり新聞を読まない子も新聞に親しみを持つ子もいた。 ●データベースではいろいろな記事に触れる活動がなくなってしまう。 |
| 国 語 | 未来をよりよくするために。 (新聞で学ぶ) | 未来をよりよくするための自分の考えを意見文にまとめる活動。 考えの根拠となるものを新聞のデータベースを利用して探す。 | 意見文の根拠となる現状や解決法を新聞の記事から見つけた。子どもたちはデータベースから記事を選び出すことができた。 ○新聞で探すより見つけやすかった。 ●PC環境により表示速度が遅くなるという難点があった。 |
| 社 会 | 社会見学新聞を作ろう。 (新聞を作る) | 社会見学で森將軍塚古墳や歴史館を見学した内容を新聞としてまとめる。 | ○学習カードを使用し、見学のまとめを行った。カードに書き込むことで自分の考えや見てきたことをまとめて書くことができた。 |
| 国 語 | 週末の宿題 (新聞で学ぶ) | 「斜面の書き写し」 信濃毎日新聞よりいただいた斜面書き写しノートに書き込む。 | 5年より継続、最初は書き落とし等の写し間違いが多かった児童も間違えないようになってきた。文章を書く速度も上がり、書くことに抵抗も減ってきた。 |

○校内研究授業 (平成 28 年度 12 月教育指導時報より)

社会科 4 年生

① 単元名 『火事からくらしを守る』 (14 時間)

② 単元の目標

火災の予防や発生時に備えるために、近隣の消防署だけでなく警察や電力会社、ガス会社、消防団など関係機関相互が連携するとともに、地域の人々と協力して未然の防止と緊急時の対応を行い、火災から私たちを守るために工夫や努力をしていることについて考えることができる。

③ 授業内容

- ・ 社会の学習で分かったことを新聞記事に積み重ねる活動

本単元で単元を貫く問いを追究していく過程で、学習した内容を授業ごとに新聞記事として書きため、最終的に単元全体の学習のまとめとして模造紙に割り付けし、図 1 のように個人で 1 つの新聞を完成させることを構想した。単元を通して 1 つ 1 つの調査活動から明らかになったことを新聞記事として自分の言葉で表現し、蓄積していく活動は、社会事象の意味について考える力や、考えたことを相手にも分かるように表現する力を伸ばすことにつながる。

図 1

| | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 火事からくらしを守る新聞 | ○小学校4年 ○○○○ |
| ○村消防団の取組について調べて分かったことの記事 | ○消防署見学で調べて分かったことの記事 |
| ○村内にある消防施設の役割について調べて分かったことの記事 | 119番通報を受信する通信指令課の役割について調べて分かったことの記事 |
| 学習全体を振り返り、単元を貫く問いについて分かったことのまとめ(社説) | |

- ・ 単元を貫く問いについて分かったことをまとめる活動 (第 13 時)

単元の学習の最後に、単元を貫く問いについて分かったことを「社説」としてまとめる活動を位置付けた。

単元を通して問題解決的な学習を展開し、新聞記事として自分の学びを書きためる活動が、社会的事象の意味を考え、表現することに生かされ、単元のねらいの達成につながった。



○ 公開授業 11月14日 生活科 2学年

I 学習指導案

1 単元名『ぼく わたしに できること』

2 主目標

動物に関心を持ち自分たちで調べ、ハローアニマルの方の話を何回か聞いたり、実際にハローアニマルへ体験に行ったりする中で、他の人たちに自分の思いや体験をすすんで伝える喜びを感じることができる。

3 単元展開の概要

| 活 動 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 1学期をふりかえろう | たくさんのカエルの死を思い出して死んでしまった原因を考える。 |
| いのちについて考えよう | 動物を飼うためには命についてもっと知らなければ飼えないことを共有し話し合う。 |
| ハローアニマルの人の話を聞こう | 授業で書いたワークシートや絵を貼りだして振り返る。 |
| ハローアニマルの方の話を聞いて話し合おう | 聞いたことをまとめる。 |
| ハローアニマルへ行く計画をたてよう | 多数決ではなくみんなが納得できるように話し合いをすすめる。 |
| ハローアニマルへ行こう！ | 安全に気をつけてハローアニマルへ向かう。 |
| 勉強してきたことをまとめよう | グループで聞いてきたことをまとめる。 |
| 新聞の作り方を教えてもらおう | 新聞の作り方（出前授業） |
| 《本時》 新聞を作ろう | ハローアニマルでのことだけではなく、今までの学習の中で自分が知らせたいことをワークシートに書き、これからの新聞やちらし作りのもとになるようにする。 |
| 全校のみんなに伝えよう | 2学期終業式の学習発表の機会に伝える。 |

4 本時案

(1) 本時の主眼

「新しい飼い主さんを見つけたい」「勉強したことを話したい」と願い作った新聞がうまくまとまらずに困っている子どもたちが、新聞を作り直す場面で、新聞作りで習ったことを思い出して、伝える相手や方法をはっきりさせたり、話し合ったりすることを通して、意欲的に新聞作りに取り組むことができる。

(2) 指導上の留意点

①今まで学習してきた資料をすぐ見返すことができるように生活科のファイルを準備しておく。

②出前授業で習った新聞作りのポイントを思い出すために全体で確認する。

(3) 展開

| | <p>子どもの意識 ○願う姿 ・支援を要する姿</p> | <p>支援</p> | |
|--|---|--|-----------------------------|
| | <p>1 今までの学習をふり返る ○新聞記者さんにいいこと教えてもらったから今日こそ本物の新聞作れるよ。</p> <p>2 教えてもらったことを確認して選ぶ。 ○私はおうちの人たちに知ってもらいたいから文字を多くしてみる。 ○見出しをつけると何がここに書いてあるか分かるって前に教えてもらったから見出しをつける。 ○1枚の大きな新聞にしたいから、今日はグループみんなで作る。</p> <p>3 本物の新聞を作る。 ○一人ひとりで書いたものをくっつけて1枚の大きい新聞にしよう。 ○新聞記者さん見出しは太い字で書くと目立っていいと言っていた。</p> <p>4 本時の活動をふり返る。 ○今日はここまでしかできなかったから、明日はもうちょっとやりたいな。 ○新聞記者さんが教えてくれたことを選んで書いたら前よりうまくいった。</p> | <p>○出前授業でのことをふり返り、誰に伝える新聞なのかをはっきりさせることでもっとよい新聞になることを確認する。</p> <p>○どのようなことに気をつけて書けばよいか、具体的に本時におこなうことを確認する。</p> <p>○出前授業で教えてもらった書き方のポイントをふり返り、自分はどんなことに気をつけて書くかを決める。</p> <p>○本時で仕上げるのではなく、本時で直すところを決めて活動を始めるということを全体で共有してから活動を始める。</p> <p>○できたところに目が向けられるようにふり返りをする。</p> | <p>5</p> <p>5</p> <p>30</p> |





5 成果と課題

成果①：身近に感じることが出来る新聞

新聞を取り入れた授業を中心に考えるのではなく、自然と子どもたちの中に新聞が位置づくといいなと取り組んだ。1学期には国語の単元「今週のニュース」の発展で新聞から気になった出来事を取り入れてみたり、読書の時間に新聞も読めるような環境をととのえたりした。そのため、2学期に生活科のこの学習が進みどのような手段で伝えるかを考える場面でテレビやネットがいいという意見もあった中「新聞だと何度も読める」という意見でみんなが納得し、新聞を作りたいという子どもたちの意識になった。

成果②：伝えたいという強い願いは書く力につながる

誰かに伝えたいという思いは書く力につながるということを実感した。「書きなさい」と言わなくても「書ける」「書きたい」という児童の姿がたくさん見られた。

成果③：見だし・書き出しなど文章の書き方

新聞を書くことで文章の書き方や見だしの付け方のスキルを身につけることができた。

課題：低学年での新聞の扱い

「書きたい」と思う事柄に出会えたので今回は書く量も書きたい意識も高くもてた。けれど題材によっては低学年での新聞の扱いは難しいと感じた。

2年間のNIEの研究を通して、①「知ったことを伝えたいという強い願いをもつ。」②「自分の考えを相手に伝える表現方法を知る。」という2つを整えることにより、子どもたちは自分の思いを相手に伝わるように工夫して表現する力をつけることができることが分かり、本校研究テーマ「自分の考えを進んで表現する子どもの育成」につながる研究が実践できた。